

令和5年度

自己評価 集計結果

令和5年 7月～9月 実施

社会福祉法人 愛光会

袋 井 ハ ロ ーこども園

令和5年度 自己評価集計結果

「いいえ」と回答した項目

		項目数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	平均値	順位		
総則	1、教育・保育の基本	14	3	1	1	4	4	2	3	2	1	4	2	2	3	1	1	5	2	1	3	2	2	1	4	3	1	3	3								2.4	9	
	2、教育及び保育の配慮	14	0	0	1	3	1	0	1	3	2	1	0	0	0	1	1	0	5	2	3	2	1	0	0	4	3	2	2	2								1.5	16
	3、教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価	35		2	1	7	13	3		1	9	1	3			9	4	4	19		4	5	8	7	4	10	13	8	5	7								6.4	1
	4、特別支援教育・障害児保育	9		1		3	5	2			5	0				3	3	8	7	3	1	6	3	3		8	7	2		2							3.8	4	
	5、「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」	7	7	4	2	0	6	2	4	3	2	1	4		4	1	4	2	7	1	1	4	3	4	2	3	5	1	2	3								3.0	6
	6、子どもの発達	14	1	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0		1	0	0	0	5	5	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0								0.8	25
第2章 「ねらい」及び「内容」	わらわら笑い保育及び内容に (1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1		0	2	0	0	3	3	0	0	1		2	2	1	0	1	0							0.7	26	
	(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	1	1	0	3	1	0	0	0		0	1	4	0	0	0								0.5	27
	(3)精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」	10	1	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0		2	0	1	2	3	1	0	3	0		1	1	2	0	0	1								0.9	23
	2歳1歳未満の保育に関するねらい及び内容に (1)健康	10	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0		2	4	0	2	6	2	1	2	2	0	2	2	4	3	0	2								1.3	20
	(2)人間関係	10	1	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0		0	2	0	0	9	1	1	1	2	0	0	3	5	1	1	1								1.2	21
	(3)環境	10	1	0	1	0	1	3	0	0	3	0	1		0	3	0	4	5	1	0	4	3	0	1	3	0	1	1	2								1.4	18
	(4)言葉	10	1	0	0	1	1	0	0	1	3	0	0		0	2	0	0	3	1	1	1	0	0	0	2	4	1	0	1								0.9	24
	(5)表現	10	2	0	1	1	0	0	0	6	4	0	2		3	3	0	4	2	1	0	4	1	0	2	3	3	0	0	2								1.6	15
	3、保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)	10	2	0	0	1	0	1	0	1	2	1	1			2	1	2	3	1	2	1	1	1	1	2	1	6	2	2	0							1.4	19
	4、3歳以上の保育に関するねらい及び内容に (1)保育内容「健康」	20		0		2	3	0		0	4	1	0		1	5	0	0	3	3	3	6	3	0	1	8	8	1	1	3								2.3	10
	(2)保育内容「人間関係」	20		0		0	3	0		0	5	1	3		5	5	2	3	4	2	5	9	3	1	4	8	13	2	6	4								3.7	5
	(3)保育内容「環境」	20		2		6	9	0		7	10	1	2		6	2	2	4	12	4	6	15	5	3	5	13	5	3	4	3								5.4	3
	(4)保育内容「言葉」	20		1		4	1	0		0	6	0	0		2	1	1	0	4	2	2	3	3	0	2	9	9	0	2	2								2.3	12
	(5)保育内容「表現」	20		1		1	8	0		0	9	1	7		10	10	2	2	13	8	4	9	8	5	5	14	7	3	8	2								5.7	2
	健康及び安全 第3章	1、健康支援	14	5	0	0	1	5	2	1	3	1	0	0		5	4	0	7	8	4	0	3	1	2	2	3	2	0	0	2							2.3	11
2、食育		11	0	0	1	2	1	0	1	1	1	0	2		1	1	0	0	2	1	1	2	0	1	1	4	5	0	0	1								1.1	22
3、環境・衛生管理、安全管理		11	4	2	1	2	3	2	1	3	3	0	1		4	3	0	5	6	3	1	2	2	3	3	6	6	2	2	1							2.6	8	
4、災害への備え		13	4	1	0	1	4	3	2	1	3	1	0		5	4	0	4	6	1	0	6	1	4	4	6	6	1	2	2								2.7	7
子育て支援 第4章	1、園児の保護者に対する子育て支援	10	2	2	1	0	2	1	0	1	1	1	1		2	4	0	1	2	3	1	2	1	1	1	5	2	1	0	1							1.4	17	
	2、地域における子育て支援	8	3	2	1	0	2	3	0	1	2	0	1	2	0	2	2	3	7	6	0	5	0	5	2	3	6	0	2	3							2.3	12	
第5章	職員の資質向上	15	1	5	1	1	6	0	0	0	4	0	0	4	2	5	0	3	3	4	0	1	2	4	1	5	6	1	0	4							2.3	12	
「いいえ」個人合計		365	38	26	14	41	83	24	13	34	90	14	31	6	57	82	25	61	155	66	38	100	56	46	50	133	135	36	44	54	0	0	0	0	0	135	1687		
「いいえ」と答えた割合(%)			10%	7%	4%	11%	23%	7%	4%	9%	25%	4%	8%	2%	16%	22%	7%	17%	42%	18%	10%	27%	15%	13%	14%	36%	37%	10%	12%	15%	0%	0%	0%	0%	37%	14%			

チェックリスト全体を振り返って、あなたにとって「気づき」の大きかったもの、特に印象深かったもの

- ・ 自分が主活動を行う際、あらかじめ保育士が考えた活動を子どもが行っているが、もっと子どもを主体として、興味関心に沿った活動を行えるよう工夫していくべきだと感じた。子どもからの「なに?」「なんで?」「どうして?」などと言う質問になんとなく答えてしまっていることも多いので、そういった子どもの疑問を大切に、一緒になって考えたり調べたりしていきたい。そして、その子どもの疑問を保育の中に生かしていけるよう努めたいと感じた。
- ・ 保育を行っていく中で、どうしても「だめだよ」「～してね。」などと言う否定語や指示語が多くなってしまっていることに気付いた。やっといういいことといけなことを子どもに伝える際には、どうしてだめなのかを子どもに分かりやすく伝えなければいけないと思うので、いろいろな方法を試しながらどうしたら子どもに伝わるのかを自分なりに探していきたい。また、毎日の活動を保育士が決めるのではなく、時間のある時には子どもの意見も聞き取り入れながら保育をしていくよう心掛けていきたい。
- ・ まだ自分は保育に関する知識が充分ではないと感じた。障害児保育について、感染症について、子どもの発達について、子育て支援についてなど、もっと勉強すべきことがたくさんあることがわかった。研修に参加したり、本やインターネットを通して調べたりしながら積極的に保育士としての技術向上に努めていきたい。これからの保育でも必要となってくる知識なので、意識して情報を自分で取り込んでいくようにしたい。保育指針などの改訂もあったので、この機会に新しくなった保育指針を改めて読み理解していくことも大切だと感じた。
- ・ 乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であり、一人一人の子どもがどのように守られ、育てられ、子ども時代ふさわしい経験を積むかは、その後の成長・発達に大きく関わると思う。このため、保育園においては0歳から6歳までの子どもの健やかな育ちを見通しながら保育にあたり、常に自らの保育を振り返り、子どもへの理解を深め、保護者との信頼関係を築いていくことが大切であると感じた。自らの保育を振り返ることで、保育の質の向上を図っていくことが大切だと感じた。
- ・ 自らの保育を省みることによって、自分の保育や仕事の質を高めることができると感じた。保育士は、目の前にいる子どもの成長や現在の姿、課題を把握し、自分はどうしたいのか考慮し、それに向かって計画を立て、実践し、その実践を評価し、改善に結び付けていくことが大切であると感じている。また、評価を通してして具体的な課題を見つけ、具体的な解決策を立てる。そうしてそれを実行することの繰り返しが必要であると思っている。
- ・ 自らの保育を省みることによって、自分の保育や仕事の質を高めることができると感じた。保育士は、目の前にいる子どもの成長や現在の姿、課題を把握し、自分はどうしたいのか考慮し、それに向かって計画を立て、実践し、その実践を評価し、改善に結び付けていくことが大切であると感じている。また、評価を通してして具体的な課題を見つけ、具体的な解決策を立てる。そう

してそれを実行することの繰り返しが必要であると思っている。

- ・ 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

今年度初めて以上児クラスの担任となり、より10の姿を意識して保育をしなければいけないと感じていたが、自己評価を行い改めて勉強不足であると感じた。指導計画や日々の保育の計画を立てる際にも3歳児のこの時期に10の姿のどの部分を育てていきたいかを明確にして立てるようにしていきたいと感じた。

- ・ 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 保育内容「表現」

自己評価を通して、日々の保育で子どもたちが自分のイメージしたことを自由に表現できる活動をほとんど行っていないことに気づき、活動内容を改善していきたいと感じた。特にリトミックのような音楽を使って体を動かしたり表現をしたりする活動は自分自身勉強不足で知らないことも多い為、ピアノが苦手ではあるがピアノ以外の音楽でも楽しんで行える活動を学び、実践していきたい。

- ・ 「健康及び安全 災害への備え」

毎月防災訓練を行っているが、園内の避難の仕方のみしか理解しておらず、園外の避難場所へ避難するときの経路などを理解していない事に気付くことが出来た。また、ハザードマップの正しい見方も理解しておらず、すぐに確認する必要があると感じた。毎月の防災訓練でうまくいった事や反省点をしっかりと職員間で共有し、翌月の防災訓練に活かせるようにしていくことが大切だと感じた。

- ・ どういった意図をもって子どもたちとかかわりを持っているのかを改めて認識することができた良い機会となった。子どもたちには相手の気持ちに気づき、自ら手伝いをしたり、誰かの役に立ちたいと思ったりしてもらえるようになってほしいと考えている。そのため、もし子どもが誰かのために動いてくれた際には大いにほめるようにし、自己肯定感が上がったり、次回のやる気に繋がったりしてくれればよいと感じている。

- ・ 食育の研修を行っているため、自分が食事に対する大切さに触れるいい機会となった。年度初めは残食することに対してあまりいいことだとは考えていなかったが、体格差やスピードによっては必要な量が違うのだと気づくことができた。そういったことからその子にあった量に調節しながら残さないことが重要なのだと知ることができた。食は0~5歳のすべての子たちに共通して行われることなので、食育に付いての重要性をもっとよく学んでいきたい。

- ・ 就職して一年たったこともあり、他の職員とのかかわりが増えてきたと感じる。他愛もない話から真剣な仕事の話までを交わしていくことで、お互いの様子をしれたり、お互いの保育観が知れたりするいい機会だったと感じている。これからもコミュニケーションを怠ることなく、より働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思う。

- ・ 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は研修等で学んだことがないため、自分で保育所保育指針や資料を読んで学びました。幼児期の終わりに一足飛びに育つことではないため、未満児の時から念頭において育てていくことが大切だと思いました。日々の保育の中で頭から抜けてしまうことがないように、時々自分の保育を振り返り確認する必要があると感じました。

- ・ 1歳以上3歳未満児の保育の中で人間関係が印象深かったです。子供の気持ちを尊重しながらも、不安な気持ちから立ち直ったり感情をコントロールしたりできるように導いていくことが保育教諭の役割として大切だと改めて感じました。また、自分の気持ちを伝えることと相手の気持ちに気付くことをていねいに伝えていくことの大切さも学びました。
- ・ 食育で無理強いはありませんが、あまりにも食べる量が少ないと心配になったり様々な食材や味を知ってほしいと思ったりすると、どのように接するとよいのか迷うことがありました。そんな時同僚が楽しく食事ができるような雰囲気を作ったり、あげ方を工夫したりしているのをみて学びました。今回のチェックリストで改めて食事を楽しむことができるような雰囲気づくりの大切さを確認しました。私も楽しい雰囲気ですぐ食事ができるよう工夫したいと思いました。
- ・ 「早くしましょう」という声掛けを、余裕のない時、忙しい時にやってしまう。落ち着いて行動、声掛けができるよう、日々心掛けていく。
- ・ 「災害時に子どもが取る行動について日頃から話しておく」について、訓練の時だけ話しても分からない子もいるため、日頃から話すことが大切だと、とても感じた。
- ・ 「健康状態を把握し、それを1人1人の保育に活かしていく」という内容では、把握しておけば体調の変化にいち早く気づき、対処することができるため、改めて大切だと感じた。
- ・ 教育・保育の基本で要領や指針などはやはり保育の中でとても大切であると感じ、読み直すことが減ってしまっているので、基本に戻りしっかりと読み直し保育に活かしていくことが大切であると感じた。基本をしっかりと学び直すことで日々の保育の振り返りもしやすくなるように感じる。
- ・ 教育課程・全体的な計画、指導計画と評価の項目で保育計画の大切さを改めて感じた。記録をすることで発達の段階やどのような支援をすればいいのか、どのような環境を整えればいいのかなども明確になってくると思うので、計画の立て方や使い方長期的な見通しを持って活用していくことをもっと考えて計画の作成をしていきたいと思った。
- ・ 保育内容「表現」の項目では子どもたちが自由に表現できる環境を整えるようにしているつもりであったが、偏りがあるように感じたので、様々な表現方法や楽しみ方が出来るようにもっと工夫が出来るのではないかと感じた。表現といっても色々あると思うのでどんな表現を楽しむことで子どもたちが多くの経験を得られるのかなど考えながら保育を工夫していきたいと思った。
- ・ 育みたい三つの資質・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿について、以上児クラスの経験がないので知識が乏しいのですが、未満児クラスでの関わりはその基礎になる部分であると思うので、子ども達が様々な経験を通して、成功・失敗を繰り返しながら何事にもチャレンジ出来るようたくさん褒めて励ましていきたいと思いました。その子の良いところを伸ばしてあげられるように丁寧な関わりを心掛けていきたいと感じました。
- ・ 災害への備えについて、普段防災訓練ですみやかに安全な場所へ逃げることを意識していますが、子ども達が登園してくる途中や、通勤中など想定外の事が起きる可能性もあるので、色々なケースを想定して防

災に努めていきたいと感じました。園周辺のハザードマップなどの確認もしておきたいと思いました。

- ・ チェックリスト全体を通して、経験が浅い分評価出来ない箇所もありましたが、経験を重ねて知識を深めたいと感じました。乳児保育についての項目は意識して子ども達と関わっている分ポイントも高かったと思います。保育者としての自覚をもち、子ども達の健やかな成長をサポートできるようこれからも努めていきたいと感じました。
- ・ 数年前と比べ母親の子育て能力が低下していると感じる。核家族で育ちスマホに依存した生活を送ってきた世代であり、周囲の支援もなく孤立しがちである。今一度そのような母親の立場となって考え共感し、関係機関と協力しながらの支援が必要と改めて感じた。
- ・ 研修などを通し個人の能力を向上させる事も大切だが、組織としてしっかり機能する為には個人の考えだけではなく他の職員の為にどのように動くべきか考え連携していく必要があると考える。その結果全体的に向上し働きやすい環境になっていけるのではないかと感じる。
- ・ 子どもは、同じ月齢や年齢にかかわらず、発達には、心身共に個人差が大きく、一人一人の発達の過程を踏まえた上で、配慮しながら保育していく必要がある
国籍や文化の違いを認め、互いに尊重していく
- ・ 子どもは、主体的に関わって生活しているので、遊びを通して積極的に環境に関わる中で、多様な経験が重ねられ、子どもにとって魅力的な環境を構成し、意欲的に取り組みたくなる活動を作っていくことが必要である
- ・ 食物アレルギーや障害のある子など一人一人の心身の状態に応じた対応をしていくことが大切であり、食物アレルギーは命にも関わるので、栄養士を交えて面談を行うことが大切であり、症状がでてしまった時の対応も理解しておく必要がある
- ・ 環境を通して保育をする大切さを理解しているものの、普段保育中であったりなかなか他の保育教諭と話したりする時間がとれないことから、なかなか連携を図ったり意見を伝える、聞くということが出来ない現状があること再度反省しました。自分の中でとどめておくのではなく、積極的に他の職員に相談することで、今よりも良い保育をしていけるのではないかと感じた。環境設定も自分とは違う意見をいけることで新しい考えも出てくると思うので今以上に職員同士のやり取りを大切にしていきたい。
- ・ 0歳児は月齢が少しでも異なると発達には大きな差があり、もちろんその子ども1人1人の成長も異なることから、個々に合わせた保育内容を考えることがとても大切になると改めて感じた。個々に合わせたねらいを立てることで、よりその子の成長を見まもりやすくなると思うため、日々の活動の中でも様子を見守り、保護者にも様子を詳しく伝えながらねらいの設定をしていきたい。また、食事、睡眠、排泄に関しても担当制を行うことで、その子に合った生活リズムに寄り添えることが強みであるため、今後続けて保護者との信頼関係を築けるようにしたい。
- ・ 人的環境がまだまだ不足している場面があると反省しました。否定的な言葉を使わないように意識しているものの、いそがしさから「やらないよ」など保育には適さない言葉を使用してしまっていた。毎日保育

を自分の中で反省し、どのようにしていこうか考えることで、気持ちに余裕もできて落ち着いた保育が出来おどもたちも落ち着いていけるのではないかと感じる。また、子どもたちの嬉しい気持ちには十分に共感することで、否定的な言葉ではなく、子どもたちにより、寄り添っていくことが出来るのではないかと感じた。

- ・ 様々な項目で「理解しているか」「説明できるか」という質問があった。分かっているつもりでも理解や説明を問われると自信を持ってはいと答えることが出来ず、改めて自分の知識の曖昧さや学びの浅さに気付かされた。基本となる「教育・保育要領」をじっくりと読み込みながらその内容を理解すると共に様々な保育書を読んだり研修に参加し、保育教諭としてまだまだ学んでいかなければならないと痛感した。
- ・ 子どもの成長は園を卒園したら終わりではなくその後も小学校、中学校…と続いていくことを考えると「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の重要性を感じる。この10の姿を頭に入れながらそれぞれの年齢の子ども達に適した働きかけや関わりを意識して行い、卒園まで継続して様々な体験を積み重ねていくことが大切だと思った。そのためには子どもの発達の流れをしっかりと理解し、一人一人の子どもの発達状況に応じて次の成長段階を見据えた関わりが出来るようにしていきたいと思った。
- ・ 子育て支援センターで日々保護者と関わっていると保護者の育児力が年々低下していると感じる。育児に関する情報や方法をスマートフォンで検索しながら我が子に対応している保護者が増えているが、これは保護者が悪いのではなく核家族化や育児の孤立化が進んだ社会の中で必死に子育てをしている表れだと思う。育児に行き詰まったり困って電話相談をしてくる保護者もいる。地域の子育てを支援していく者としてこのような保護者に寄り添いながら子育ての技術や子どもへの関わり方などを伝えていくことが求められていると思っている。
- ・ 乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を作る重要な時期であり、一人一人の子供がどんな経験をするのかでその後の成長・発達に大きくかかわると思う。そのため、保育教諭として愛情をもって専門的な知識を考慮して関わるのが大切である。大切な時期の関わりであることに気付くことができた。たくさんの経験ができるようにいろんな機会を作っていきたいと思った。
- ・ 心に余裕をもって関わることの大切さに気付いた。保育教諭自身に余裕がないと子どもの小さな変化を見逃してしまったり、伝え方がきつくなってしまうと思うからだ。そのため、いろいろな子どもの動きを知ることによって気持ちを受け止めることができ、心に余裕をもって関われるのではないかと思う。
- ・ 保護者との信頼関係の大切さに気付いた。毎日の連絡帳や送迎の際のコミュニケーションが保護者との信頼関係づくりの基盤である。それらを活用しながら、保護者自身の不安や困っていること・子どもについてなどを聞いたり、話しをしたりすることで子どもにとって過ごしやすい環境を整えることにつながるため、保護者との信頼関係は大切だと再確認した。
- ・ 特別支援の内容については、以前担任していたクラスで発達障害の病名がついた子どもがいたこともあり、「はい」と答えられる内容が多かった。自分自身が、発達障害について勉強したり、援助方法を考えたりすることはできていた。自分自身の知識は身に着けるような努力は行っていたが、保護者にその内容について伝えることが出来ていなかった。集団生活をする中で、そういった個性のある子もいること、障害について理解できるような情報提供を保護者にしていく必要があると感じた。障害がある子どもの保護者

だけでなく、そうではない子どもの保護者にも知って行ってもらえるような取り組みが必要であると感じる。

- ・ 未満児クラスの担任になり環境についての内容の中でも、地域の生活に興味を持てるような内容や、社会との繋がりや地域社会の文化に気付くような内容の活動の難しさを感じている。散歩に出かけて地域の方に会い挨拶をすることはあってもそれ以外のことが難しい。地域の生活に子どもが興味を持てるように、話していけたらよいと感じた。年齢的にも社会との繋がりを感じることは難しいが、興味を持てるような工夫をしていきたい。
- ・ あいさつは社会生活をする上で必ず身に付けてほしいと思うので、自分が子どもの手本になるようにしている。子どもが自分の言葉で表現し、気持ちを伝えられるように代弁したり、いっしょに言葉で伝えたりするようにしている。子どもの話にじっくり耳を傾けるようにしているが、生活する中でどうしても急かしてしまっていることがあり、反省する部分もあるので、気を付けていきたい。
- ・ 「乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものである。」子どもが安心して穏やかに過ごせる場所を提供するだけでなく、保育者が子どもを愛おしいと感じながら保育していくことで、子どもは自分が大切にされていると実感できるようになる。子どもの人生の根幹にかかわっているという責務を感じた。
- ・ 愛情をもって子どもに向き合っていくことが何よりも大切ではあるが、どのようにかかわっていくのかを「資質 能力」「10の姿」を保育者が理解して保育をしていくことが大切と感じる。自分自身は威圧的な教育されてきてそれが正しいと思い込んでいる節もあり気を付けていきたい。新しい指針、要領を理解し柔軟に取り組んでいきたい。
- ・ 健康に関して、今後も衛生面に配慮し清潔の習慣が身につくようていねいに声をかけていきたい。けがをしないよう安全に生活する方法、自分の体を大切にする気持ちを育てていけるよう知らせていきたい。
- ・ 乳幼児や3歳児以降の5領域また、10の姿は、似たよう表現が多く自分では、やっているつもりでも、まちがっているかもと考えさせられました。気持ち的には気をつけて対応をしていますが、実際はどうだったかなあ？と感じる事ができました。本を読んだり環境を考えたり遊びの充実を考えて話し合うことは、これからも大事だと思いました。
- ・ 乳児保育に関わるねらい及び内容について、おおむね「はい」に丸を付ける関わりができていると振り返ることができた。子ども達の成長をそばで見守り関われることに感謝し楽しみながら、これからも温かで優しいゆったりとした対応に努めたい。また、生活や遊びを通し発達を援助する中で、職員間で声を掛け合う等しながら、子どものケガや事故、体調の変化等に最大限の注意を払っていきたい。アレルギー対応の子どもに関しても細心の注意を払い、絶対に大事に至ることのないよう職員間でのコミュニケーションや連携を大切にしていきたいと改めて感じた。
- ・ 以前に比べ様々なクラスに入ることが多くなったため、他クラスの子どもの連絡帳にも目を通し、子どもの生活の様子を少しでも把握できるよう努めたいと思った。年齢の小さいクラスから大きいクラスに入ると、不慣れなため自分の中で切り替えが上手く出来ず、必要以上に介助してしまう場面があり反省し、支

援について考えさせられた。食事や着替え排泄など、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを大切に、自分でできることが増えていくことを子どもと共に喜びながら生活していきたいと思った。また仲立ちやトイレ誘導等の場面も後先輩方の言葉がけを真似するなどし、経験を積んでいきたいと思った。

- ・ 嘔吐処理について、いざという時にも落ち着いて対応できるように定期的にやり方をおさらいしておきたいと思った。また、引き続きコロナをはじめ感染症などに注意し、空いている時間にはおもちゃを消毒するなど、微力ながらもできる対策をしていきたいと感じた。
- ・ 職員間での情報共有の大切さを改めて感じた。健康の面だけでなく子どもたちの発達に関してのことで、小さなことも共有することが日々の保育の中で重要になってくる。毎日保育で精一杯になってしまい、なかなか伝える時間がないと感じることもある。今は、体調に関してのことを伝えることで精一杯になってしまい、子どもたちの様子や発達に関して話し合うことができていない。自分の中で少し余裕を持って、保育を行うことができると情報を共有する時間も作れるようになってくると思う。まずは、落ち着いた雰囲気の中で保育を行うことができるようにし、その中で少しずつ時間を見つけて共有していくようにしたい。また、保護者にも子どもの様子を伝えることで、家での様子を聞いたり信頼関係を築いたりすることができる。時間を見つけ積極的に話していくようにしたい。
- ・ 子どもたちの発達について、自分で考えて行動できるような働きかけの大切さを改めて感じた。遊具の使い方や、子どもたち同士のトラブル、安全に過ごすためのルールなど、様々な決まり事を伝える機会があった。しかし、子どもたちが考えることができるような声かけができていなかったと自己評価を通して感じた。子どもたち自身が納得してルールを守っていくためには、子どもたちが自分たちで考えて行動していく必要がある。自分で考える機会を作ったり、トラブルになったときにどう思ったかどうすれば良かったのか子どもたちに投げかけたりしていくようにしたいと思った。また、自分で考えて行動できたときには、その姿を十分に認めて自信がつけられるようにしちと感じた。
- ・ 自己評価を行っていくことで、自分の今持っている知識をしっかりと保育に活かすことができていると感じた。今まで学校の授業で習ってきたこと、研修で学んできたことなど多くのことを学んできた。自己評価の項目に出てきている内容で、研修で聞いたことあると感じる内容もいくつかあった。しかし、知識として理解している内容でも、それを日々の保育の中であまり活かすことができていると感じた。毎日自分の中でその日の保育について反省したり、振り返ったりしているが、自己評価を行っていく中でもたくさん反省点がみられた。声かけや関わり方でも意識して行うことで、子どもたちによりよい保育が行えるようなことも多くあった。定期的に振り返る機会を作り、保育の質を上げられるようにしていきたいと感じた。
- ・ 「健康及び安全」について
今年度は新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、落ち着きつつあるが、まだ感染が終息したことはないため、引き続き感染対策をしていく必要がある。また、違う感染症が流行したり、原因の分からない風邪に罹患したりするなど体調不良の子どもが増えているように感じる。園でも消毒や室内の湿温管理など十分に感染予防をするとともに、保育教諭が感染症や怪我などの知識を蓄えることが大事である。保育教諭が子どもの些細な体調の変化に気付き、家庭と連携しながら健康を守っていく必要がある。
- ・ 「教育及び保育の基本」「教育及び保育の配慮」について

時間や自分の気持ちに余裕がある時には温かな言葉かけやスキンシップを心掛け、子どもの気持ちを受け入れることができていると思う。その反面、活動で時間に追われている時に、自分の気持ちが焦ってしまい子どもにせかす言葉を掛けたりすぐに対応できず待たせてしまったりすることがある事が反省点となった。

未満児クラスを受け持つことが多いが、0歳児からの成長に合った充実した経験や情緒の安定が以上児クラスになった時の成長に深く影響してくるので、その時だけの個人の考えによる援助、配慮だけでなく、連続性を持った援助や職員全体の意識の共有が、今以上に重要になると感じた。

- ・ 「子育て支援」について

10年ほど勤めている中で近年、保護者の子どもや園に対する対応の仕方や関わり方、子どもの成長の様子に顕著な変化を感じている。また、保護者支援が必要な家庭が増えている。今まで以上に保育教諭がコミュニケーション能力を持って、保護者一人ひとりに合った対応をすること、職員や関係機関と密に連携を取っていく事が求められていると強く感じた。生じた問題を軽く考えず、真摯に向き合って保護者や子どもと信頼関係を深めること、問題に対して園や自分（保育教諭）自身を守る術を今以上に身に付けていくことが、これから更に大事になると考える。

- ・ 子ども一人ひとりに合わせた保育をしたいと思っているのに、その大切さも分かっているのに思うように出来なくてもどかしかった。その為に保育教諭と思いを伝えあい協力することが大切だが、うまくいかないこともあったのもっと分かりやすく伝えていきたいと感じている。

- ・ 毎年楽器との触れ合いが少ないことが気になっていたが、今年度は音楽鑑賞会を機に楽器に触れることが出来た。今後も音楽の楽しさを伝えられるよう工夫していきたい。

- ・ 子ども自身が考えて行動できるようにということを常に念頭に置いて関わっていくようにした。考える時間、相談する時間は大切にしていきたいと感じている。また、療育の子も自分で気持ちを落ち着かせる方法や切り替えられる方法を見つけられるよう関わってきている。その経験が生きていくうえで困難を乗り越える力、落ち着いて生活できる支えになればいいと思う。また、友達のいいところに気付けるよう援助していきたい。

- ・ 保育についての知識(障害がある子ども、少し気になる子)があまりなかったり、参考資料や乳児、幼児についての本を持っていても見る機会がないので自分から勉強していきたい。
子ども1人1人の事を理解するためには、知識だけでなく保育の現場で、実践していけるといいと感じた。

- ・ 0歳児の担任を持って、子ども達に対して「〇〇したかったんだね」「これは△△だね」と受け止める声掛けをするようになった。受け止める声掛けや関りをする事で、子ども達が安心して過ごせたり信頼関係を作れるように心がけている。こども1人1人にあった関わりをして、この先生なら、たくさん遊んでくれると思ってくれるように保育をしている。

- ・ 部屋の中には、年齢にあった玩具、環境を整えているが、成長とともに玩具を替えていたり、季節の自然物を取り入れていないので子どもたちが色々な経験が出来る様に心がけたい。棚やおもちゃも年齢に合わせて音の鳴るもの、手触り引っ張る、叩くなど…揃えれるといいと感じた。おもちゃも毎回違う場所に

置くのではなく、いつも同じ場所できれいに環境を整えておくことも大切だと感じた。

- ・ 「人間関係」について

子どもと一緒に何事にも笑顔で楽しむように日々心掛けている。

見守りながら子どものやろうとする気持ち、意欲を受け止めることは大切だと思う。友だちに対しても保育教諭に対しても自分から積極的に話しかけることができる子どもいれば恥ずかしい気持ちがある子、さまざまな気持ちを持った子がいる。そこを保育教諭は一人ひとり把握しその子にふさわしい関わり方をしていくことが大切だと感じた。

- ・ 「保育内容の言葉」について

未満児クラスは特に言葉数が増える時期である。日々一緒に生活していく中で一人ひとり個人差はあるが話せるようになった言葉がふえてきている。子どもに話しかけているときだけでなく保育教諭同士の会話の中での言葉も子どもたちは常に聞いているため気をつけていくべきだと思う。どのようにして言葉を伝えていくか、子どもの言っている言葉を拾ってあげられるか今後の課題になってくると思う。

- ・ 「健康支援」について

感染症については園全体で感染防止につとめている。現在新型コロナウイルスについても十分に対策をしている。子どもの感染しやすい病気についても同様で、担当しているクラスで発症者がでた場合、玩具の消毒や部屋の消毒等、感染防止でやらなければいけないことをきちんと行うようにして感染を広めないように努力している。未満児クラスでは指吸い等する子が多く感染もしやすい。以上児クラスに関してもトイレのドアノブ等、未満児クラスとは異なった所から感染していくため十分に注意が必要であると思う。

- ・ 子どもの様子や援助の方向性、先を見通した保育の環境設定などについてクラス内でもっと話し合い共通理解のもと子どもたちに接していけると良いと思う。「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について日々の保育の中で意識したり照らし合わせて振り返ったりすることがあまりなかった。子どもの現在の育ちと比較してどんなところを育てていきたいか考えるようにしていきたい。

- ・ 保育にかかわるねらい及び内容について子どもの興味関心がある遊びを環境を通して連続性をもった保育していくということが、私の中でまだまだ分からないことがあり難しく感じてしまっているが、試行錯誤をしながらやっていきたい。

- ・ 自分自身のものの捉え方、考え方、倫理観、子どもや保護者への対応の仕方など振り返って直していったり助言をもらったりして変えるべきことはかわっていくようにしたい。自分の知らないことや疑問に思っていることを積極的に学んでいくようにしたい。

- ・ 教育課程、全体的な計画、指導計画のところで、子どもの今の姿にあった環境を作っていくことを大事にしていきたいと思った。0歳児は月齢が違い、一人一人の様子が違うため、よく観察をして援助をしていければと思った。

- ・ 健康支援のところで、感染症についてももっと勉強しておかなければと思った。0歳児は、病気にかかりやすく、保護者に聞かれることもあると思う。その時に、答えられないと良くないため知識をもっと増やし

ていかなければと思った。また、応急処置用品のやり方について手順を今一度確認していきたい。

- ・ 食育についてのところで、子どもの食事のペースに合わせて食事ができたらと思った。食事をするペースが遅くなってしまい、眠くなって全部食べられない子がいたので、子どものことを考え上手に食事がとれるように心がけていきたい。食べている途中で席をたつ子、口から出してしまう子もいるので、ダメなことはだめだよ。としっかり伝えていけるようにするとともに子どもの気持ちも考えて楽しく食事ができていけたらなと思った。
- ・ 5領域「人間関係」について
自らきまりの大切さに気付くようにしているかという設問に対して、守らなければいけないということを第一に伝えてしまっていると自分の保育を振り返ったときに感じた。なぜ守らなければいけないのか、その時々で毎回説明することは難しいかもしれないが、ただ単に「まもろうね」と声を掛けたところで、子どもは言われたからやったという意識しかなく、自分で考えようとしないうちに繋がると思った。自分で気付くことが一番の学びになると日々の保育で感じるが多いため、子ども自身が自分で気付けるような配慮や関わり方を心がけていきたい。
- ・ 職員の資質向上について
今まで、自分自身で仕事を抱えすぎたり、担任間での伝達が不十分だったりして保育がうまく進まないことが多々あった。今年度は担任間での報告・連絡・相談を徹底するよう意識して勤めている。意識するうえで、同僚とのコミュニケーションが必須であると感じた。ただの業務連絡だけにならないよう、日ごろからコミュニケーションをとるよう心掛けた。報告・連絡は出来ているが、相談（話し合い）はあまり出来ていないと感じるため、些細なコミュニケーションを大切にしながら仕事をしていきたいと思う。
- ・ 教育及び保育の配慮について
個々の発達に寄り添った保育をするよう心がけているが、自分の心や時間に余裕がないと、指示ばかりになったり強い口調での言葉掛けになったりしていると反省する。自分が焦っている時は、子ども達も落ち着いていないことが多く、怪我に繋がりがやると感じるため、余裕がない時こそ深呼吸をしたり少しその場から離れるなどして落ち着かせるよう努めたいと思った。子どもも落ち着いて過ごせるよう職員間でもサポートし合っていきたい。
- ・ 子どもの発達には必ず個人差があるため、子ども一人ひとりのことをよく理解しておくことが保育をするうえでとても大切なことになってくるなと改めて気づくことが出来た。乳児のクラスは特に個人差があるのでなるべく一人ひとりに合った保育方法をよく考えてできるだけその子に合った保育をしていけたら理想の保育だと感じた。その保育ができるには1人だけの力ではできないので周りの人、同じクラスの人と協力してより良い保育をしていきたいと思った。
- ・ 子どもたちに色々な表現方法をするためには、保育教諭が積極的に色々な表現をできる機会を作っていかなければいけないのだと感じた。表現方法には楽器や製作など幼児だけでなく、乳児でもできる表現方法を探し、小さいころから色々な表現ができる環境を作っていきたいと思った。そのためには年齢に合った表現方法を調べたり他の園ではなにをしているのかを見に行ったり機会を増やしていけたらいいなと思った。

- ・ 環境もすごく子どもの発達や成長に関わってくるものだなと感じた。年齢やそのクラスの色に合った環境を作ることにより、落ち着いて過ごせることが増えたり安心して過ごしたりすることもできると思うので環境を子どもの成長によって変えていこうと思った。今のクラスも環境を何度か変えることによって子どもの様子が変わっていたので環境をしっかり定期的に変えていこうと強く思った。来年度はどのようになるのかとても楽しみになった。
- ・ 全体的に保育士としての資質・能力がまだまだ足りないところがたくさんあるなと思った。保育で自分が得意なことをすることにより、マンネリ化してきていると思った。自分が苦手でも子どもの成長の上では音や色・形など探求心、好奇心そそられる場や遊びが必要だと感じた。
- ・ 私は「表現」である歌やピアノが苦手なので、どうしても違うものに逃げてしまうことがある。代わりに色や砂、紙などに触れるようにしてきていた。でもチェックをしてリズムに合わせて動いたり楽器に触れたりすることも重要だと気付いた。
- ・ 保育者は時間を見て時間の中で保育をしているので、子どもが嫌でもその時間だからと保育者の勝手に保育することがあるなと気付いた。
- ・ 決められた時間の中で子どもの気持ちに寄り添い、気持ちに共感しながら保育をすることが大切だと気付くことができた。

レーダーチャート比較

・令和3年度のグラフと比べると令和5年度のほうが全体的に出来たことが増えていたの
でよかった。乳児は全体的に10に近く、丁寧な関わりや援助が出来ていることが分か
る。1歳以上3歳児未満では「健康・表現・環境」、3歳以上児では「健康・人間関係・
環境」が課題になっていることに気づいたため、自分の保育を見直しながら、課題を克服
していきたいと思う。また、職員間でも自己評価の振り返りをし、クラスの環境を見直し
たり、保育の仕方やクラス運営などについて話し合いの場を設けたりして、今後に生かし
ていきたい。

・2年前の自分と比べて、少しでも理解が深まっている項目があり嬉しかった。より良い
保育が出来るように子どものことをより理解し、充実した保育をしていくことを心掛けて
いきたい。5領域や10の姿などを含めて、子どもの成長を見ていけるようにしていきたい。
日々の保育の中で自分なりに反省点を出し、次の保育へと繋げていけるようにする。

・昨年度出来ていないと感じていたことが、今年は意識することが出来ている。チェック
リストの結果に満足せず、出来ていないところやまだもう少し出来ることがあると思うの
で、頑張りたいです。

・去年と比較すると、全体的によくなっていると感じた。1歳以上3歳未満児は時々保育
に入らせてもらうくらいだが、子どもの名前を覚えて声を掛けたり接したりすることで、
より距離が縮まり人間関係が良くなったように感じた。3歳以上児では、昨年8月の自
己評価をその後保育で生かすようにした。表現の部分が足りていなかったため、自然物
を入れて楽器を作ったり、廃材を使って自分なりに考えて作れる環境をつくったりした。今
後も偏りがないように保育が出来たらいいなと思った。

・大きく成長出来ているなど感じるころもあれば、逆に評価が下がってしまったものも
あった。理由としては、幼児クラスの担任に一時的ではあるがなくなったため、実際、直接関
わることでやっぱりできていないな、むしろこういったことに挑戦できたなど、明確に気
づくことが出来たため、去年とは違い、下がるものもあれば、大きく上がったものもあ
ったのではないかと気づくことが出来た。はっきりと自分の出来ていないところ、出来て
いるところが目に見えて分かるようになったので、出来ないところは、新たに挑戦したり、
今まで行ったことのないことを積極的に行えるようにすることで、改善することが出来れ
ばいいと思う。

・昨年と比べて、寄り添えるようになったきたが、自分の中で余裕がなくなると子どもに
対して、声掛けが少なくなったり、「ちょっとまって」「あとからね」と言ってしまう。
少しでも心にゆとりを持って、保育をしていけるといい。保育教諭が何をするにも楽しん
で、子どもの見本となる保育、寄り添える保育を心掛ける。

・去年と比べてどの項目も伸びていた。入ってから1年4か月たち、少しずつ自分の中
でも慣れて子どもたちと関わる事が出来てきているのではないかなと思う。丁寧な保育が出

来るように、今回「いいえ」に入れた項目は特に意識するようしていきたい。

また、3歳以上の項目が全体的に低かった。今年から初めて以上児クラスの担任になり、以上児クラスでの生活に慣れてきたところのため、低くなってしまったのではないかと感じる。今回低かった「環境」「表現」の項目を意識しつつ、少しでも子どもたちが伸び伸びと園生活を過ごすことが出来るようにどうしたらいいか考えていきたい。

・昨年評価の低かった表現の項目を伸ばすことが出来た。乳児については、引き続き高い評価を保てるような関わりを続けていきたい。

・去年より、0歳児以外の保育に入ることが増え、それに伴って1・2歳児との関わり方に、0歳とは違う難しさや自分の無知さを感じる場面もあったり増えたことが、グラフの変化に表れていると思う。